

# 藤田浩子の 少し昔のこと 〈77〉

## 花嫁修業

家庭科のことを書いたので、ついでに花嫁修業のことも書きます。私が若い頃、ちょっとお金のあ  
る家のお嬢さんは、たいてい、お花、お茶、裁縫、  
編み物、料理など（もっと言えばお琴や踊りやお作  
法など）お師匠さんについて月謝を払って習って  
（昔はおけいこといいましたが）いました。お金の  
ない人も、祖母や母親やおばさんなどに教わって、  
ひと通りは身につけてから結婚しました。職場に  
も茶道部とか華道部とかあって、働きながら花嫁  
修業ができるような受け入れ態勢ができていたよ  
うに思います。私はそういうものを正式にならっ



たことはありません。花の生け方は母に、お茶につ  
いては師匠をしていた伯父の所に和菓子目当てに  
行っては横目でちらちらと眺めた程度です。

話はぼんと飛ぶのですが、アメリカに行ったと  
き、ある小学校で語った後、5年生の先生に「日本  
の花の活け方（フラワーアレンジメント）を教えて  
欲しい、花も買ってきてある」と突然言われ、フラ  
ンさんはおもしろがって「やってみろ」と言うし、  
子どもたちの前で冷や汗をかきながら「主になる  
花を天・地・人の三角形に置いて…」とでたらめを  
教えてきました。まさに旅の恥はかき捨て。あとで  
聞いたら、Fujita Hiroko という華道の有名な方  
がアメリカで日本の生け花を教えていらっしやる  
そうで、その方と間違えられたのです。本物の藤田  
さん、ごめんなさい！

花嫁修業なんてという言葉、今はもう死語でしょ  
うね。私のころはまだ生きていて、良家のお嬢様で  
なくても、なにかひとつぐらいはおけいこに通っ  
ていたのではないのでしょうか。今でもお花を活け  
るのが好きだから、お料理が好きだからと習って  
いる方はいらっしやるでしょうけれど、花嫁修業  
としてではないでしょう。

リレー連載 <210>

## わたしの大好きな絵本

さっちゃん（藤心小おはなし会きらきら）

子どもが小さい頃、何度も読んだ懐かしい絵本  
です。

ともだちのてんぐちゃんの持っているものが  
次々とほしくなるだるまちゃん。その願いをかな  
えようと、思いつく限りのものを集めて、だるま  
ちゃんの前に差し出すお父さんのだるまどん。我が  
子が物を欲しがると、ひとはひと！と言っていた  
私は、えーそんなに甘やかしているの？と思っ  
たり。天狗の鼻が欲しいのに、たくさんのお花を  
差し出すだるまどんの勘違いに「さいている は  
なでなくて かおにある はなだよ」とキレられても、

『だるまちゃんとてんぐちゃん』

作・絵：かこ さとし

福音館書店

「おおまちがいのとんちんかん」とあっさり  
と間違いを認める姿には、親だから間違っ  
ちゃいけない、なんて事はないんだな  
と、私の心もトン・チン・カンととき  
ほぐしてくれました。

